

台本

ドスケベ落語2 〓 珍々亭円光のパイパイ奇譚〓

酒熊評議会／くもり遥

▼本編

／／BGM ジングル

／／SE 拍手

やあやあどうもどうも。珍々亭円光でございます。どうぞ、ごゆるりとお付き合いくださいませ。

お久しぶりの方もいらつしやいますね。初めましての方は初めまして。軽く自己紹介でも致しましょうか。

あたくしは珍々亭因法いんぽうの弟子にして、現役JK処女落語家の、珍々亭…おっと。

処女じゃありませんね。こないだ卒業したものですから。

前回お越しのみなさん、あたくしの処女のお味は、いかがでしたかね。

ふむ…いっぱい射精でた？

(演技 あざとく)

いっぱい射精でたね、お兄ちゃん♡

ふむ…締めりがよかった？

(演技 あざとく)

もーお客さんつたらエッチ♡ 締めりじゃなくて、オチでしょ♡

ふむ…師匠がかわいかった？

(演技 袖にいる師匠に向かって、素で)

ですって師匠。聞いてますー？

…

ふ。ふ。ふ。照れてるw

というわけで。

えー、非処女落語家の珍々亭…なんかしっくりきませんね。

ヤリマン落語家の…おっと、なんですかい？

一回やっただけでヤリマンを称するなんて、本物のヤリマンの方に失礼だ？

これはこれは失礼致しました。

やれネット世代だ、やれグローバル社会だ、さして詳しくはありませんが、あたくしも炎上ってのは怖いですからね。全国のヤリマンの皆様、大変申し訳ありませんでした。非処女を代表してお詫び申し上げます。

おほん。気を取り直しまして…

まんこ落語家の珍々亭…なに？ 下品すぎる？ もっとお茶の間に配慮した言葉遣いをしろ？

これはこれは失礼致しました！

おまんこ落語家の珍々亭円光でございます！

本日もよろしくお願いいたします〜！

／／SE 拍手

にしても着物つてのは暑うございますな。壇上は日照りみてえにライトが当たるもんですから、じりじり暑くて。背中や腋の下なんか蒸れて仕方ないですよ。いっそマイクロビキニでも着て一席^ぶ打ちたいもんですね。

みなさんは見たいですか？ マイクロビキニ落語。

／／SE 歓声

もう、みなさんエッチなんだから♡

何色がいいですかね。王道の赤？ カワイイ系のピンク？ クールな青？

ふむふむ。あたくしは黒がいいと思うんですよ。大人の魅力たつぶりですよ♡

ふむ、肌色とな。お客さんったらスケベですねえ。素っ裸に見えちゃうじゃないですか。

でもそれなら褐色もお勧めですよ。お日様輝く真夏のビーチで、褐色肌に褐色ビキニ…いいじゃありませんか。チョコレートみたいに。ペロペロしたくなりますよね。そんなに見たいなら、今度着てきてあげましょうかね。

師匠が。

似合うと思いますよ、褐色ビキニ

褐色っつーか枯れ木色ですかね？

師匠ー、お客様が師匠のマイクロビキニ姿をご所望ですよー

／／SE べしっ(扇子を投げる)

痛ーっ！ 扇子を投げるなっ！

そんなに怒らなくていいじゃないですか！

何？ 今のは昨日の極太デイルド浣腸のぶん？

…あはは、その説は失礼しました。

…おっほん。

まあ、あたくしも着物脱いだら一般JKでございますから、海苔みてえにパリっとした制服着てね、小学三年生の鉛筆みてーに短いスカート履いて、通学電車に乗ってるわけでございます。

例えに色気がない？

んじやこうしましょうか。

(演技 わざとらしいお色気感)

ンあたくし、ン女子高生♡ なんですよどね♡

普段は着物脱いでえ♡ 制服♡ 着てるんですよ♡

ツヤツヤのボンテージみたいなセーラーとお♡ 股下五センチの超ミニスカートでえ♡

♡ おっぱいがボインボインで♡ お尻がぷりんぷりんでえ♡ 山手線一周する間に三千回痴漢されちゃうくらい、エッツッロイ体したJKなんですよ♡

(演技 素で)

虚しくありません？

ちなみに脱いだらスゴいってのはホントです。

すごいですよ。

ライオンが子突き落とす千尋の谷でございます。

つつつるです。とっかかりゼロです。子ライオン、ぜんぜん昇ってこれません。

でもあたくしね、これまで何人も子ライオンを突き落としてきたんですよ。

(演技 思いっきりメスガキになってください)

雑魚♡ 雑魚♡ 雑魚♡ 雑魚♡

子ライオンおじさんの足腰弱すぎww。ふるふる震えて立てないの、なっさけなッ

いw 生まれたての子鹿未満♡

ちやーんと立てるように、鍛え直してあげるね♡

メスガキママライオンが♡

千尋の谷に♡

お・と・し・て・あげちゃう♡

赤ちゃんライオンからやりなおせ♡

おっと。

ここいらで野次が聞こえてきましたね。

なになに…

大人に向かって赤ちゃんとは何事だ。メスガキわからせてやる、孕めオラ。
ちよつと、前から言ってますけど誹謗中傷はダメですよ。

そこにお立ちなさい。

…あらあら。

立てとは申しましたが…下の方まで立てろなんて申しちゃいませんよ？

いけない赤ちゃんでちゅね。

後で楽屋に来るように♡

メスガキママライオンが、狩りの仕方♡ 教えてあげまちゅからね♡

というわけでね、円光の奇妙な落語第二部の上演が決定致しました。演目？ 決まってるじゃないですか。

『援交潮流』でございます。

…ご好評であれば続編が決まるかもしれませんよ。

第三部『チンポ出すと臭えだーズ』

第四部『ガイアまんこはくぱあれない』

第五部『黄金の玉』

…欲張りすぎですかね？

来年のことばかり話していると、鬼に笑われるとはよく言います。身を引き締めていきたいもんですね。

とはいえあたくしも芸人の端くれですから、ありがたいことに出くわすもんでございまして。 ありやあ学校帰りでしたかね、駅ナカの立ち食いそば屋で、独りずるずるやってたところでございます。

(演技:そばを食べる・フェラ音と似た感じですよって頂きたいです)

ふー、ふー

ずるずるずるずるっ、ずるるるるっ…

もぐもぐ

ふー、ふー

するするする

(演技 汁をすすする)

すすすすすす

ふはーっ

なんでしょねこの、

うますぎず不味すぎない加減ってのは。

そばの命たあ何でございましょうか。

コシ？ 出汁？ 香り？

はたまた、天ぷらお揚げの類いですかね。

なんであれ、平均点があるとするとするなら、

立ち食いそばってのは、百発百中てそこを狙い撃ってくるもんでございます。

コシなんて期待しちやいけませんよ。下手したら歯あいりませんから。

処女ヒロインがよく言うじゃないですか。

(演技 初めてフェラする処女ヒロインになってください)

「あたし初めてだから…歯、当たっちゃったらごめんね？」

ぜひと気をつけていたきたいですね。歯が当たった瞬間ちぎれちまいますからね。

(演技 処女ヒロイン)

「わぁ…かちかちだね♡」

嘘おつしやい。ふにゃちゃんですよ。

(演技 処女ヒロイン)

「お汁…すっごく濃いね…♡」

いえいえ、白湯と変わりませんよ。

(演技 処女ヒロイン)

「ふー、ふー…すっごく熱い♡」

当たり前ですよ。ぬるま湯みてーな一杯なんか出された日にや、あたくしでも怒ります。

まったくもう、処女ヒロインさんったら気を遣いすぎですよ。

(演技 処女ヒロイン)

「ちゃんとできるかわからないけど…いただきます♡」

あいさつができる子はいいい子ですよ。

それじゃあね、最初は先っぽだけ、ちょびっとね。

(演技 処女ヒロインの激うまフェラ／そばをすすする)

「すすするすすするっ、すするるるっ」

プロの方ですか？

処女…そうですね、はい、なるほど。

なんつって、こっこ遊びは大変楽しいものでございます。

あたくしったら、ひと目はばかりず一人遊びに興じるなんて、なんて恥知らずなんでしょう♡

おかげさまでやたらと視線を感じます。

特にお隣のおじさんから。

や〜ん♡ 円光視姦されちゃう〜♡

なんて思ってたら、とうとう話しかけられちゃいましたね。

おじさん「…ん？ まさか…うん。やっぱりそくに違いねえ。お嬢さんもしかして、名前を珍々亭円光っつーんじゃないか」

円光「おやまあ奇遇なこと。あたくしを…存じで？」

おじさん「存じるも何も、俺あ円光さんのファンなんだよ。こないだの見たよ、まん汁怖い。若えのに大した肝の座りようだったよ。いやあ嬉しいねえ。そのちり紙でいからサイン頂けねえかな」

円光「お安い御用ですよ…サラサラサラ〜と。練習しといた甲斐がありました。上出来で」やいます」

おじさん「ありがとうよ。ありや、ちよつとはみ出しちまつてゐね。上出来と言ったが、もう少し練習が必要みたいだね」

円光「何をおっしゃいます、完璧じゃありませんか。このはみ出し具合が初々しいんですよ。だいたいね、初めてで上手すぎるってのもおかしい話ですよ。処女ヒロインのフェラじゃないんだから」

おじさん「こりゃ一本取られたね。こいつは財布にでもしまつとくよ。にしても円光さんは研究根心だねえ。おじさんこう見えて教師をやってるんだけどね、最近の若い子はめつきり研究つてのをしなくなった。夏休みの自由研究たら、ネットで他人に金払ってやらせとして、自分は浮いた時間で遊びほうける始末さ。賢いんだか何なんだか」

円光「へえ、もつたいない子もいるもんですね。あたくしだったらもつと賢くやりますよ」

おじさん「へえ、どうやるんだい」

円光「あたくし現役女子高生落語家でございますからもちろん……
深夜に生声配信します」

おじさん「生声配信〜？」

円光「どのサムネがいちばん再生数稼げるかつー研究ですよ。谷間出したやつが一番でした」

おじさん「生々しいね。その歳でこの世の真理に気づいてどうすんの」

円光「でもおじさんそういうの好きですよね」

おじさん「大好き♡ ついクリックしちゃう♡」

円光「動画ありますよ。こちらです」

おじさん「なになに……」

【バイノーラル寿限無】深夜に現役JKがイチャイチャ落語しちゃいます……

ちよつと円光さん、これ本当に円光さんかい？」

円光「何をおっしゃいます。本物ですよ」

おじさん「だってあんた何だいこれ…爆乳すぎやしないかい？ 実物と全然違うじゃないか」

円光「ない胸は作れる…」

おじさん「あんたこれ偽乳^{にせちち}ってレベルじゃないよ。あーあー、あれもこれも、この動画も盛つてらあ…ちよつと円光さん、毎回乳の大きさが違うじゃないか」

円光「研究ですからねえ。AからZまであります」

おじさん「Zってあんたバケモンじゃないかい」

円光「ときにおじさんはMですか？」

おじさん「なんだい出し抜けに…まあSかMかつたらMだね」

円光「トマゾですか？ クソマゾですか？」

おじさん「ねえ円光さん、それどう違うの？」

円光「クソマゾですね、かしこまりました。ご注文以上でよろしいでしょうか」

おじさん「なんで店員？」

円光「オプションお付けしますか？」

おじさん「ほー、よくわかんないけど、どんなのがあんだい」

円光「アタックモード、スピードモード、カウンターモードがございます」

おじさん「じゃカウンターモードで」

円光「冴えないおじさん大好き♡ 前髪すつかすか♡ 口臭漂ってくる♡ 会社の女性社員から嫌われてそう♡」

おじさん「なんだかよくわからないが…へへ、意外と悪くないもんだねえ。おじさんも円光ちゃんのこと好き♡ かわいい声で罵倒してちょーだい♡」

円光「インポ♡ 五十肩♡ 生活習慣病♡ ゼロ趣味♡ ゼロ貯金♡」

おじさん「円光さん、もっとおじさんが傷つかない方向でお願いね」

円光「検索履歴に『JK 盗撮』♡ 教師のくせにJKをそんな目で見てるんだら、変態♡」

おじさん「お、いいね。性癖バカにされんの気持ちいい♡」

円光『JK 痴漢』『JK のぞき』『JK 体育祭』『JK ダンス』

おじさん「何で知ってるの？ ちょっと怖いから、次の罵倒いこか」

円光「短小包茎からわっいっいっ♡ 学校ではいばり散らしてるくせに、脱いたら奥ゆかしいんだ♡」

おじさん「あゝいいね、すっくいいよ円光ちゃん。クソマゾおじさんぐっと来たよ」

円光「おじさんはどうしてそんなにクソマゾなの？」

おじさん「それはね、おじさんにマゾを覚えてくれた先生がいたからだよ。先生に教える先生、つまり教師を超えた教師。

調教師(超教師)：…ってね。ガハハハ！」

円光「寒いんだよハゲ潰すぞ」

おじさん「カウンターってそういうこと？」

円光「さて、お腹もいっぱいですから、そろそろお暇しますよっと。サイン大事にして

くださいね。オナティッシュにしちゃあいけませんよ」

おじさん「そいつあ名案だけどね、やっぱ額縁に入れて大事にしとくよ。今日はありがとよ。あ、ちよいと待つとくんな。えーと……一、二、三枚。へへ……袖を失礼つと」

円光「おやおや、いいんですかい？　こんなにいっぱい貰っちゃって」

おじさん「罵倒代つてことにしといてよ。それにあんた、自分の名前忘れちまったのかい？」

円光「なるほど、では高座名こうざなにあやかりまして、珍々亭円光が確かに頂戴致します」

おじさん「こんなしみつたれた立ち食いそばじゃなくつてよ、ソレ使つて、たまにはいいそばでも食いな」

円光「いいそばでございますか。立ち食いそばで満足しまうような舌ですから、あたくしとんとグルメには疎いんでございます。いいそば屋つてのはどう見分けたいいんでしょう？」

おじさん「そりや簡単だ。暖簾のれんを見りゃ一発だね」

円光「暖簾つてえと、ビラビラしててめくると中が丸見えになる、あの暖簾ですか？」

おじさん「そうそう、中から良い匂いがふわつと立ちこめる、あの暖簾だよ」

円光「暖簾で見分けが付くつてのは、いったいどういう意味ですかね？」

おじさん「暖簾の汚え店こそうまい。つてーのはね、その昔、飯屋にはおしぼりで手拭くつー習慣がなかったんだ。代わりに何で拭いたかつてーと、暖簾だ。そば食った客は、汚れた手を帰りがけにくぐる暖簾で拭いてった。そうしていっぱいいっぱいの客が拭った暖簾は黒ずんでいく。よく黒ずんだ暖簾を見りゃあ、その店が繁盛してんのがわかるつて寸法さ」

円光「なるほど。帰りの夕涼み^{ゆうすずみ}がてら、汚え暖簾でも探してみましようかねえ」

…

ずいぶん長居しちまったようで、立ち食いそば屋を出りゃあカラスもカーカー鳴いております。昼と夜のあわいの空ときたら、いくつになってももの悲しゅうございます。

あたくし、ついフラフラ〜と帰り道を逸れちまったんです。その晩はどうにもセンチになっちまいましたね、あるいは魔が差した…とも。

夕の暮れから暗がりへ、月の明かりも未だなく、知らぬ存ぜぬ散歩道…

ふふ、逢魔が時とはよく言ったものですな。あちらこちらの物陰に、得体の知れねえもんが手をこまねいて潜んでる、なんて埒^{らち}のねえ思い込みすらしちまう始末。

おや。

こいつはあたくしの勘違いか。

少し、体に異変を感じましたが…気にせず歩き続けます。

知ってるようで知らない道でした。小せえ頃に通ったかな？ って気もしますが、団地も公園も見覚えがありません。

夕飯の匂いと、灯り始めた街明かりだけが、あたくしの記憶をちくちくと刺激するんです。

人が死んだらあの世に行くとは言いますが、誰もあの世を知りません。行っちゃった奴は帰ってこないんですから。

あなた方はあの世に何を望みますか？

酒池肉林の宴？ 黄金財宝の山？ あるいは果てしない眠り？

悪くないでしょう。

悪くないでしょうがね、母ちゃんの夕飯の匂い漂う天国つてのも、案外と悪くないかもしれません。

って待ちなさいよ。ここが天国つてえと何ですかい、あたくしは死んだままだったってことですかね。

ちよつと神様、来世は東京のイケメン男子にしてくださいと言ったじゃありませんか。

せつかく生まれ変わるっつーなら、時を超えるラブストーリーの主役でも張ってみたいってもんですよ。

トスケベ落語が映画になったら監督はあの方でお願いします。チンパイ誠監督♡

おや。おやおやおや。

さつきあたくしが体に感じた異変、勘違いで済ますにはちよいと無視できなくなっ
ちまいました。

何やら揺れてるんですよ。

おっばいが？

だつたら嬉しいこと限りなし、ですが答えは否でございました。

おそろおそろ股間に手を伸ばします。

お…おお…！

(演技 君の名はの三葉が瀧^{たき}くんの体で目覚めたとき、股間にちんぽがついてるのに
驚くシーンのパロお願いします)

なんや…ある！

そうです。なんやがあつたのです。

ボルンボルンと跳ね回る、凶悪な極太チンポ…！ ではなくですね、こーう、ぶるん
ぶるんとしたかわいらしい…少年のような…

(演技 この辺からだんだんシヨタの声になってください)

むずむずしますね。

少し触ってみましょうか。

…ほ、ほう。

やわらかい…あれ…でもだんだん…かたく…

あ、やだ…立ってきた…

そんな…恥ずかしいよ…♡

ん、ん…♡ おっ♡ お、お♡ おゝ♡

いけない、人に見られたら…。

お、おさめないと。あれ、あれ？ やだ、立っちゃう…

とりあえず物陰に…！

ふう…ひとまず安心ですが。

いったいあたくしの身になにが…ん？

あれ、そういえば声も、あー、あー。

あたくしの声がボクの声になってしまいました。

なんだか違和感がありますね。あー、あー。

とりあえずシヨタに言わせたい台詞ランキング一位から三位まで録音しときまし

ようか。

えー、第三位。

お姉ちゃん…ぼくのおちんちん、変になっちゃったよお…♡

第二位。

ちっ…兄さんはいつもこうだ。ろくに計画性もなくせに、他人のために後先も考えず、首を突っ込んで傷だらけになってさ…はぁ。尻拭いをするボクの身にもなつてくれよ。

第一位。

んほおおおおおお♡ ちんぽ、ちんぽ、ちんぽおおお♡ ちんぽ出るっ！ S字結腸ケツアクメで超新星爆発級のトロテンしちゃうのおおおおおおお♡ イクイクイクイク出る出る出る出る、あ、あ、お、お♡ おおおおおお…どぴゅっ、どぴゅるるるるるる…！

はい。

帰ったらこれでオナニーしましょう。

しかし電波は圏外ですし、道もわかりません。人っ子一人見当たりませんね。

おーい、おーい…

暗くなつて参りました。いかに珍々亭円光といえど、ひとりぼっちってのは好みません。寄席は一人じゃあできませんから。

明るみを求めてふらふらさまよっていますと、

(演技 匂いを嗅ぐ)

すんすん、すんすん

…ほお

何やらいかがわしい匂いがしますね。

(演技 アニメ氷菓の千反田える(CV. 佐藤聡美)に寄せてください)

なんでしょう。イカの匂いですか？ それとも栗の花ですか？

っていうかザーメンですよ？ どうして精液の匂いがするんですか？
中折れ木さん、わたし気になります！

(演技 元の女声の円光に戻ってください)

つてことで調べてみましょう。

あ、女声も出せるみたいです。さすがは声変わり前のシヨタ。
まあ、おちんちんが生えて低い声が出るようになった以外は、特に変わりないみたいですね。

幸い、胸が小さくなるなんてこともなく。
ええ、これ以上小さくなるなんてこともなく。

……

（演技にこやかに）

今笑ってるお客様、あとで楽屋に来るように♡

さて、匂いを辿ってたどり着きましたるは、一軒のそば屋でございました。
ええ、そば屋です。

紺の暖簾に、はつきりと「そば」と書いてあります。

よほど繁盛してるんでしょう、汚え汚え暖簾です。

白くてカピカピしたのがこびりついています。

もっぺん鼻を鳴らしてみると、匂いはたしかにこの店から漏れてるんです。なんなら暖簾からも。

中からは何やら喘ぎ声が聞こえてきます。

こわいもん知らずの血が騒ぎます。

ごめんくださーいっつって引き戸をガラガラ開けてもよかったんですが、開けた瞬間パクリと食われちゃあたまりません。

そつと、そつと…覗いてみましょうかね。

（『抜きそば』の登場人物・お姉さんが登場します。優しく暖かい癒やし系です）

お姉さん「はぁーい、いい子いい子♡ お姉さんのお口で、僕くんのえっちなお・そば

♡ 食べてあげますからね♡♡

（演技「フェラ」そばをすすする）

ずるるっ、ずぼっ、ずゆるるるるるるっー！

（抜きそばの登場人物・シヨタです。健気な受けです）

シヨタ「お、おねえさっ、あ♡ ああ♡ すーいっ、僕のそば、すすられてるっ♡ あ、おねえさんの口の中につ、吸い込まれていくよおおお♡」

お姉さん「だめですよ♡ お姉さん喉渴いちゃったもの。僕くんがあつぅいダシ汁♡ ぴゅっぴゅって、お姉さんのお口に出すまでやめてあげません♡ ダシ♡ 濃ゆくて香り高いダシ汁、いっぱいぴゅっぴゅして♡

ふっふっ、ずるる、ずるるるるるうう♡ ずるるるるるるるっ♡

ん♡ トッピングの天かすもいアクセントだわ♡。どんぶりにこびりついた、白くてプリプリした天かす♡ ん♡天かすくっさ♡い♡ れろれろれろろ…じゅぶ、ずるるるるるっ…」

今度はあ♡ お揚げの中の、ウズラの卵さん♡ いただきまあ♡す♡
はあむ…も♡も♡…も♡も♡」

シヨタ「はああああああ♡ お姉さんっ、転がさないでえ♡ 僕のウズラの卵、転がさないで♡ お揚げの中のっ、ウズラの卵っ、お口の中でコロコロするの、それ、やばいよっ！ ダシ汁染み出てきちゃうよお♡ あっ♡ おっ♡ お、おおほおおお♡」

お姉さん「ふふふっ♡ お次はちくわ♡ 僕くんの綺麗なピンクちくわ♡ ほんとに綺麗な色ね♡。

まずは箸でつまんで…くりくり♡ くりくり♡ うん、弾力も十分♡
それじゃ…いただきまゝす♡

ちゆるるる♡ はむはむ♡ ちゅっ、ちゆるるる♡ はむはむ♡

ん♡ おいし♡

あら、二つもあるのね、ぜいたくだわ♡

こっちもいただきます♡ ちゆるっ、ちゆるるるう♡

シヨタ「わっ…！ お姉さんがつきすぎだよ♡ 食いしん坊お姉さん大好き♡ 食いしん坊お姉さんの、豊かに実りすぎただらしなおっぱいちょうだい！ おっぱい、おっぱい…♡

わっ、お姉さんのおっぱいぷるんぷるんだ♡

つつるるもちもちのおうどんさんおっぱいだね♡ ちゆるちゆるしてもいい？」

お姉さん「いいわよ♡ 僕くんがおうどんおっぱいちゆるちゆるしてる間、お姉さんが僕くんのおそばシヨシヨしてあげるからね♡ しししし♡ おそばはいっぱいこねてあげた方が、コシが出ますからね♡ しししししし♡ おそばは♡ あら♡ おそばからおダシが染み出てきちゃったわ♡ お姉さんのお手で、ぬるぬるになっちゃっ♡

ああ♡ ああん♡ お姉さんのおうどんおっぱいも、ミルク染み出してきちゃっ♡

ああん♡ ぽたぽた、ぽたぽたって♡ ああ♡ こんなに勢いよく♡ ぴゅー、ぴゅー♡
♡ 僕くんのおそばにかかつちゃう♡ こうなったらおそばにお姉さんのおうどんミ
ルク、練り練りして練り込んであげちゃうかしら♡ えい♡ にゆるにゆるにゆる
♡♡」

シヨタ「わゝゝゝゝゝゝ！ おうどんおっぱいでおそば挟むの、気持ちよすぎるよゝゝゝゝゝゝ！ 僕の先走りおダシと、お姉さんのおうどんミルクがまざりあつて、ああ♡ おそばが未知の味わいになっちゃう♡」

お姉さん「そ・れ・じや・あ♡ おうどんでおそばサンドしたまま♡ ミルクそば、い
ただきまあす♡ すゆるるるるつ、ずぼぼつ、ずりゆりるるるるるるるるっ♡
おいしいゝゝゝ♡ ぜいたくな薬味だわ♡ 七味唐辛子ならぬ、乳首とんが
らし♡ お姐さんの乳首……じゃなかった、ちくわもふりふりになつてるよ♡ こーう
してちくわ擦り合わせると、き・も・ち・い♡」

シヨタ「あ♡ あ♡ あひつ♡ きもち、きもちいつ♡ あ、あ、上がってきたよ♡
熱くて濃ゆいおダシ、びくびくって、あ♡ あ♡ あ♡ おねえさっ、やばいよ♡」

お姉さん「あらあら、お姉さんもつとゆつくり味わいたいのに……しようがない子♡
でも僕くんがとっても美味しいから許しちゃう♡ 腹八分目♡ ごちそうさまの力
ウントダウン、いきますからね♡♡

十ゝ♡
じゅるるるっ♡
じゅぼっ、じゅぼぼぼぼっ！」

シヨタ「んああああ♡ ひつ、あつ、これ、やばああああ」

[illegible]

こら僕くん、我慢するの♡ コシがふにやふにやになつてゐるぞ♡

ハ♡　ずずず♡　じゅぽっ、じゅぽぽっ♡　んっちゅぱっじゅるるるるるっ、
じゅるるるるるるるっ♡」

ショタ「ひつ、あつ、あひつ♡ ニ、こんなじやすぐにダシ汁ぶしゃーだよ♡ ごちそうさまで我慢できないよぉー！ お姉、お姉、お姉……！」

お姉さん「ん？どうしたの僕くん♡ ごめんねえ♡ おそぼと一緒に語彙力も食べちゃったみたい♡ お姉、じゃなくてえ、お姉さん、でしょお♡」

シヨタ「お姉さん……お姉さん……お姉さん……！ お姉……さん！ さん♡ さん♡ さ
ん♡~~~~♡」

お姉さん「あら♡ もうダシ汁ぶしゃー三秒前って感じね♡ 大丈夫♡ お姉さん
もすべごちそうさまするから♡ ニい♡♡ じゅぶっ、ずるずるずる……ずるるるる
るるっ

「♡♡ じゅぽぽっ、じゅぽっ、ずるずるずるずる……ずるるるりゅりゅりゅりゅ
うっうっうっ……」

シヨタ「あああああゝダシ汁出りゅっうっうっうっうっうっうっうっうっ……」

お姉さん「んっ、ん~~~~、」「くっ、」「くっ……んぶっ……ふう。僕くんのダシ汁、とろと
ろで、熱くて、濃ゆくて、おいしい♡

ふっっ……」「ちそうさまでした♡」

シヨタ「おほっおお……♡ ふっ……ふう……♡ はあ……きもち、よかったよお……♡」

お姉さん「ぶぶぶ、いっぱいダシ汁出せましたね♡ えらいえらい。」「ぼしちやつて」「
めんなさい。うぶぶっ、あんまりたくさん出しちゃうから、お姉さんも僕くんも、ダ
シ汁で真っ白になっちゃった♡」

シヨタ「いいよいいよ、そこで拭いて帰るからさ。そんじゃ、ありがとうお姉さん……」

お姉さん「気をつけて帰ってね。」「ちそうさまでした♡」

／／SE 床とんとんとん(足音)

……行きましたかね。

いやいやまあまあ、えっちですこと……

珍々亭円光のちんちんも元気になってしまいました。

しっかしこいつをそば屋と呼んでいいものでしょうか？ だってね、客がそばを食う
方じゃなくて食われるほうなんですよ。客がそばでね？ じゃあそば食うお姉さん
は何もんだってんでしょね？

にしてもうまそうに頂いていたじゃありませんか。あつあつのそばを、ふー、ふー……
って冷ましてから一気に

ずるるるっ、ずるるるるるるっ……

いやゝ粋ですねえ！ 粋ってか…イキですね？

白い天かすにピンクのちくわ、お揚げにウズラにダシ汁も一級品とききました。あの少年、なかなかの逸材でしたね。

いいですねええ、あたくしもあんな風においしく食われてみたいもんです。ほんつとにおいしく頂かれちゃってまあ！

(演技:「)のセリフは円光が先ほどのおねシヨタを面白がっているマネしている部分です)

「あひっ♡ きもち、きもちいつ♡ あ、あ、上がってきたよっ♡」

って。ええ、ずいぶん敏感なおそばでしたねえ？

「熱くて濃ゆいおダシ、びくびくって、あ♡ あ♡ あ♡ おねえさっ、やばいよっ♡」

シヨタそばは早漏でたまりませんなあ、うひひひww

こちらで「ちそうさまのカウントダウンでしたねえ。

十つて、ずるるるるっ！

九つて、ずるるるるっ！

八つて、ずるるるるっ！

まあ焦らすのなんの、お姉さんったらなかなか「ちそうさましてくれなくてね、おそばの少年ったらもうダシを出しとって仕方ない様子でございました。

「ひっ、あっ、あひっ♡ こ、こんなんじやすぐにダシ汁ぶしゃーだよ♡」

つってねえ！ かわいらしいのなんの。

「「ちそうさままで我慢できないよぉー！ お姉、お姉、お姉…！」

「んゝどうしたの僕くん♡ お姉、じゃなくてえ、お姉さん、でしょお♡」

「お姉さん…お姉さん…お姉さん…！ お姉…さん！ さん♡ さん♡ さんうゝ

ゝゝゝ♡」

「二ゝゝゝ♡ ずゆるるるるっ！」

…ん？

お姉さん、さん、さん、つってからの二？

ちよいとお待ちくだせえ。

十つて九つて八つてからの、

お姉さんのさん、三からの二、二からの一でどびゆるるる…

……

／／SE 扇子を叩く(ポン)

一本取られましたね。

いくらダンが出そうだからって、土壇場でカウントダウンを誤魔化すたあ並大抵じゃありません。

アダムとイブがリンゴを食ったその日から、人類つてのは知恵とスケベを手に入れたんです。中でも、知恵とスケベを生業にまでしちまったあたくしみたいな人種は、一丁前の矜持があるんでございます。

負けちゃいられません。
こいつはあたくしへの挑戦状ですよ。

(演技 徐々に女声からシヨタ声になってください。ここからずっとシヨタです)

おまんこ落語家改め、おちんぼ落語家の珍々亭円光、射精力ウントダウンを誤魔化してご覧に入れましょう。

／／SE 扇子を開く(バツ)

円光「ごめんくださーい!」

(抜きそばの登場人物・事務のお姉さんです。文字通り事務的に対応してください)
事務姉「いらっしやいませ。」「予約ですか？」

円光「いえ、立ち寄りです。おそば、食べて頂きたいんですけど大丈夫ですか？」

事務姉「すみません、現在はお姉さんもお腹いっぱいでございます。ちょうど暖簾を下ろそうかと」

円光「おや、それは残念です。あたくし……ンッ、ボクのおそばはかなりの大盛りですから、空腹のお姉さんじゃないとかわいそうです。出直してきます」

事務姉「……お待ちください。前回のお出汁はいつごろ出しましたか？」

円光「えっと、……その……恥ずかしながら、今回が一番ダシです。初めてはやっぱ、優しいお姉さんにあげたいかなって。あはは、何言ってるんだろボク」

事務姉「初物ですか……」グッ。なるほどでしたら、じっくりねっとり、一滴も余すところなく、頂かなくてはなりませんね。他のお姉さんはあいにく満腹ですが、私のお腹であればまだ余裕があります。よろしければ一番ダシ、私が頂きますよ」

円光「もちろん！ 実はボク、ひと目見て、お姉さんに食べてほしいなって思ってたんです。嬉しいな……♡」

事務姉「お上手ですね。私も嬉しいですよ。そちらのベッドで頂きます。少し冷えてきましたね。おそばが縮んでいませんか」

円光「大丈夫です。すぐチンするんで」

／／SE 扇子を閉じる

事務姉「まあ、早い。それに完全に伸びきっています」

円光「はあ……はあ……♡ お、お姉さん……はやく……冷めちゃう前に……お願い♡」

事務姉「では、お手てから失礼します……熱いです。ほかほかです。柔らかいのに固い……理想的なコシですね。非常に喉ごしが良さそうです。

くんくん……くんくん……

香りもなかなかですね。青々とした草原を思わせる匂いです。素晴らしい」

円光「はあ……はあ……♡ ボクの一番ダシ……早くお姉さんに飲ませてあげたいな……♡」

（演技…事務姉はフェラガチ勢なので色んなフェラをやってあげてください）

事務姉「ではお口で……ちゆる、ちゆるるる……

ええ、予想通りつるりとした食感ですね……

ちゆるるっちゆるるるる……

口当たりはまるやか……塩加減も絶妙です。

おいしい……もっと、もっと……ずるっ、ずるるるる、ずるるるるるる……」

円光「あ、あ、あ……♡ き、気持ちよすぎるよお♡ お姉さんの舌使いやばいよっ♡ 初めてのおそば、す……いっ、囁かれてる……う……♡

あ、あ♡ あああっ♡ ……ちよ、お姐さん、あのっ、少し、優しく」

事務姉「じゆるるるっ！ ずりゅっ！ ずぼぼぼっ！ じゆるりゅっ……」

円光「お姉さんっ、お姉さんっ！ やばいってそれすぐダシ汁でちゃう、ダシ汁がしゃ……って、あ♡ あああ♡ おねっ、おねえさ……あ♡ んっ♡ おっ♡ おおっおっ♡」

事務姉「ダメれふ……じゆるるるるるっ！ ！ ボクくんの……じゆるるるる……！ おそば……じ

ゆぼじゆぼじゆぼつ！ 大量すぎて…んぐつぶちゆるるるつ！」

円光「んうっ♡　なんか思ってたのと違っ…ああ♡　ちよ、あの、おねえさ…あ
おっ♡　おくくっ♡　ていうかお姉さんすゝい力〜!」

事務姉「逃げてはいけません。れろれろれろ……」

ぢゅぽぽぽぽっ！

色んな啜り方を、試したいんです。んちゅつ、んちゅつ、んちゅつ……じゅっぽ、じゅっぽ、じゅっぽ！

最高のダシ汁を出すためには……れえろろ……ちゅうろろ……ぽつ！

おそばを、味わい尽くすくらいでないと……んぽっ、んぽっ、んぽっ、んぽっ、んぽっ！」

円光「んほお〜！ おそば囃られるの気持ちよすぎるのお〜〜！ お口に入れたおそばをつ、出したり入れたりするのつ、マナー違反なのにつ、ンギモディイッ！」

事務姉「んぐゝゝゝずぼぼぼぽっ！　じゅるぽっ！　じゅるぽっ！　ぐぼぐぼぐぼ
っ！　…ふはっ。

初物おそば、コシが強くシコシコです。バッキバキのボッキボキです。舌の裏側や軟口蓋に刺さります。そろそろ先走りのおダシが染み出してきましたね」

円光「あ、あのっ、そろそろっ、カウントダウンを…っ♡
おねがいしましゅううっ♡」

事務姉「まだまだ井^{どんぶり}は空きませんよ。横乳アへ系ザーメン特盛り、チンピクマシマシカウパーカラメ。いただきます。

じゅるるるっ！　じゅぼるるるっ！」

円光「あひっ！ あひっ！ 出ちやう、出ちやうよおお！ お姉さんの漣に混ざってダシ汁ぶしゃーしちゃうよおお！」

事務姉「しかたないですね。よっこらセックス」

円光「え？ お姉さん？ え？ どうしてボクの上に……え？ ちょ、まって、下のお口はやば……あつ——♡」

事務姉「こちらのお口でも…いただきます…♡ ほおおっ♡ ボクくんのおそば、勢いよくすり込んで…おう♡ ふふふつ、絡みつくでしょう？ お姉さんのひだひだお口アワビで、ゆっくり、じっくり、ねっとり♡ 嚙んであげますからね…」

／／BGM始 手を叩く(腰を打つ)

円光「ひぎいいいい♡ こんなの気持ちよすぎってすぐ…あ、あ、ちくわっ♡ ちくわダメっ♡ 下のお口でおそばすりながら、上のお口でちくわぺろぺろダメっ…！」

事務姉「見てください。お姉さんのアワビと、ボクくんのおそばが混ざり合っています。なんて贅沢な一杯でしょう。ワカメのトッピングもたっぷりですよ。

ちゆるるる… ボクくんのちくわ、つやつやでプリプリですね。ちゅぷつ、ちゆるるるる…やはりちくわは新鮮なものに限りませうね。ちゅっつ、ちゅっっっっっ

円光「うう、あつ、あつ♡ もう、もう限界…♡ カウントダウン♡ お願いしますっ♡」

事務姉「なるほど、確かに丼の底が見えてきましたね。ダシを満たしてあげなくては、カウントダウン、いきます。

十…ちゅぱちゅぱちゅぱちゅぱちゅぱちゅぱちゅぱちゅぱちゅぱちゅぱちゅぱ

円光「長いよ！ あゝもうダメですこれやばいやばいやばい。お姉さっ、あうっ、お姉、お姉、お姉…さんっ…！」

事務姉「なんですか？ 九…はむはむはむ…ちゅっ、ちゅっ、ちゅっ…！」

円光「お姉さん、お姉さん、お姉…さん！ さん！ さん…！」

事務姉「さんさんさんさんうるさいですね。夏ですか？ 冷やし中華始めますか？」

円光「ひいいいいちくわに氷当てないでええええええ！ どこから持ってきたのそれっ…！」

事務姉「ダシ汁ぶしゃーしてはいけませんよ。まだあなたというおそばを味わいつくしていませんから。あら、こんなところに活きのいいチャーシューが」

(演技キスされる)

円光「んぶっ…！ 息っ、できないっ、むちゅっ、ちゅっうっうっうっ、おねえさっ、ちゅ、じゅるっ、じゅるるるるっ…」

事務姉「んはあっ…ボクくんのチャーシューおいしい…ずっと味わっていたい気分です。甘噛み、しちやいます…はむはむ、ちゅっ、はむっ、ちゅぶっ」

円光「ぶはっ、お姉さん、あの…カウントダウンは…っ」

事務姉「忘れていました。えーっと、ああ、九十九^{きゅうじゅうきゅう}」

円光「なんで増えてるの…！ あ、出るっ…んぐっ、お、おうおっ♡ ひぐっ、ひぎいっ、あ…♡ ダシ汁…ぶしゃー…♡」

／／BGM終 手を叩く(腰を打つ)

事務姉「あら、ごちそうさまのカウントダウンは失敗ですね。ダシ汁、下のお口から零れちゃってます。まだまだ頂きたいところでしたが…仕方ありません。デザートに致しましょう。ようこそセックス」

円光「デザートって、お姉さん…それ、どういう…」

事務姉「おそばの語源を知っていますか？」

円光「おそばの語源…？」

事務姉「おそうじバキューム。略しておそば。じゅるるるるるるるっ…」

円光「あ~~~~♡ あっ♡ あ♡ あ…♡」

事務姉「ふふ、バッキバキのポッキポキです。こんなに早くチンできるなんて、なかなかの「シ」をお持ちですね。それでは二杯目、頂きます」

円光「お、おあとがよろしいようで…おうっっ♡」

／／ BGM ジングル
／／ SE 拍手

ドスケベ落語2 　　ゝ 珍々亭円光のパイパイ奇譚ゝ
了